

MAY DAY
前夜祭 4/29

2020

第91回愛知中央メーデー企画

みんなの

メーデー前夜祭

団結して生活と権利を守り、平和と民主主義を守ろう！
東三河地区メーデー集会

愛労連
東三河労連
東三河労働組合協議会

愛知のうたごえ協議会

2020.4/29 (水/祝)

14:00~16:00 開場 13:30

愛知労働会館東館 2Fホール

参加費 1000 円

(飲み物・軽食・歌集付き)

みんなあつまれ~

♪♪♪ インターナショナルで ♪
5/1 世界がつながる
4/29 は愛知でつながる~

働く者の団結で生活と権利を守り、
平和と民主主義、中立の日本をめざそう！

5/1 メーデーは世界の労働者が団結する日
そのプレ企画みんなのメーデー前夜祭は
人間らしく働くこと生きることを願い
多くの人たちと未来への希望を歌い交わします
みんなが笑顔になれるメーデー前夜祭へ
ぜひおいでください

大交流&うたう会

- ♪人間らしく
働き生きる職場から
- ♪働く者の歌
- ♪メーデー歌と一緒に



主催：2020みんなのメーデー前夜祭実行委員会
後援：第91回メーデー実行委員会・愛知のうたごえ協議会

お問合せ：愛知のうたごえ協議会
TEL 052-351-2618 aiutagoe@gaea.ocn.ne.jp



メーデーって何？

5/1 メーデーは、働く人たちが集まって
デモもするけど、メーデーって何？

何も知らないでボーっと生きてると、
チコちゃんに叱られちゃうよ

メーデーの歴史

5/1 は労働者の日

●人間らしく働くために 8 時間労働制を要求

1886 年（明治 19 年）5 月 1 日にアメリカのシカゴで、合衆国カナダ職能労働組合連盟の労働者 35 万人が、8 時間労働を要求してストライキに立ち上がりました。当時、労働者は低賃金と 10 数時間を超える長時間労働に苦しめられ、労働時間短縮は切実な要求でした。1890 年にヨーロッパ・中東欧、オーストラリアやラテンアメリカの労働者数十万人が、アメリカの労働者に連帯して集会やデモを展開し第 1 回国際メーデーがスタート。

日本では 1920 年（大正 9 年）5 月 2 日に初めてのメーデーが東京上野公園で 1 万人が参加し、8 時間労働制実現・失業防止・最低賃金法設定・シベリア即時撤兵の切実な生活要求などをかかげ開催されました。

NHK アーカイブス（かつてのメーデー映像をごらんください）

メーデー労働戦線
団結の威力
1946 年（昭和 21 年）11 年ぶりのメーデーに 50 万人（東京）



1950 年メーデー
平和と独立へ、
全国 1000 万人が
戦争反対を誓う



●そのとき歌が生まれた ♪インターナショナル

革命歌は
誰が何をうたったのか？

19 世紀後半のナポレオン 3 世のフランス。恐慌により失業者があふれ、労働組合の結成と各地でストライキが頻発。1871 年 3 月、フランスとプロイセンが戦った普仏戦争の講和に反対したパリ市民が蜂起して世界最初の労働者政権・パリコミュンが成立しました。しかし政府軍により 3 万人が虐殺され 2 か月後に鎮圧されました。

その直後に、コミュンの労働者詩人ポチエが、戦火のくすぶるパリの街に身をひそめインターナショナルの詩を書きました。1888 年に労働者合唱団員のジェイテルが曲をつけ、瞬く間に全世界の労働者に歌われるようになりました。日本には 1922 年（大正 11 年）に紹介されるが、政府の弾圧で禁止され、声のないジェスチャーで表現しました。労働者がむくわれる時代を切り開いてきた歌です。

1 起てうえたる者よ 今ぞ日は近し
さめよ我がはらから 暁は来ぬ
暴虐の鎖たつ日 旗は血に燃えて
海をへだてつ我等 かいな結びゆく
いざ戦わんいざ ふるい起ていざ
あゝインターナショナル 我等がもの
いざ戦わんいざ ふるい起ていざ
あゝインターナショナル 我等がもの

2 聞け我が雄叫び 天地轟きて
屍越ゆる我が旗 行く手を守る
圧制の壁破りて 固き我が腕
今ぞ高く掲げん わが勝利の旗
いざ戦わんいざ …… r e f ……

作詞 ウジエーヌ・ポチエ
訳詞 佐々木孝丸 佐野 碩
作曲 ビエール・ド・ジェイテル



今こそ
全国どこでも最低賃金
1500 円

8時間働けば
ふつうにらせる社会を！

●人間らしく暮らすために・・・世界の常識は全国一律最低賃金と引き上げ

日本では非正規雇用労働者が全労働者の 4 割で 2000 万人をこえています。その賃金は正規雇用労働者の半分以下。最低賃金は愛知県 926 円（月額約 16 万円）、東京 1013 円、最低は秋田・高知・鹿児島など 15 県 790 円。加重平均 901 円です。若者が自立して人間らしい最低限の暮らしのためには、都市と地方で差はなく 1 か月 23 万円前後、時間給で約 1500 円が必要です。

世界の主要国は全国一律があたりまえです。今こそ、日本のどこでも安心して暮らせるよう、全国一律最低賃金制度の実現と、最低賃金の引き上げが必要です。そのことで、時代を担う若者たちへ自立できる社会が展望できます。購買力の引き上げで、特に地方経済の活性化が期待できます。都市への人口流出を防ぎ地域を支える中小企業を元気にすることができます。